

県委託事業「カジダン・イクメン養成講座」 ～パパがつくる基本のクッキング& 家族にモテるパパになる秘訣～

キーワード：カジダン・イクメン、パパ友、Facebook、
パパッとクッキング、ランチセミナー、パパのリアル&モテ

活動の内容 ～県内3地区でカジダン・イクメンの育成・応援～

【実施主体】青森県男女共同参画センター指定管理者 ASTAC・G（アスタクグループ）

【実施時期・場所】※県内3会場で実施。1回3時間/会場

青森地区：平成25年1月20日（日）/アピオあおもり 調理実習室・工作室

弘前地区：平成24年12月22日（土）/弘前市文化センター 調理実習室・第2会議室

八戸地区：平成25年1月19日（土）/八戸市福祉公民館 調理実習室・いこい室

【対象・定員】

子育て中の男性・15名/会場

【内容】

①料理実習：「パパがつくる基本のクッキング」

ふだん冷蔵庫にある食材を使って手軽でパパッとつくれる基本の料理を体験。各地区の地元の料理研究家が講師になり、旬の食材、乾物や缶詰などを使用した手軽にパパッとつくれるレシピを考案、実習を行った。併せてライフステージごとの食事の違い（離乳食・介護食など）について、アレンジレシピを配付した。青森・弘前では「カジダンアワード」を実施し、料理の出来栄え、盛り付け、チームワーク力などを競った。

②ランチセミナー：「家族にモテるパパになる秘訣」

カジダン・イクメンのロールモデルとなる講師をお招きし、実例、実体験を基にカジダン・イクメンのメリット、家族や仕事、地域社会への好影響を講演していただいた。また、グループワークでは「わが家の家事・育児・介護の分担例」などを披露し合い、和気あいあいとパパ同士の交流を行った。



活動のきっかけや目的 ～「食」を活用し、生活的自立と交流を促進～

青森県では、男女とも多様な働き方、生き方が選択できるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでおり、その一環として、男性を対象とした家事・育児・介護等への積極的な参画を支援する講座を、平成24年度から実施することにした。

具体的には、子育て中の男性を対象に、食の面での生活的自立を促進することを目的に、ふだん冷蔵庫にある食材を使って、ご飯、汁物、主菜、副菜等の基本の食事づくりを実習する「パパがつくる基本のクッキング」を実施。そして一連の食事づくりと食事の場づくりを体感し、パパ同士の交流を深めることで、家族との安定した関係づくり、仕事や地域における生きがいややる気の創造につなげることも目的にしたランチセミナー「家族にモテるパパになる秘訣」を後に続けた。現時点のワーク・ライフ・バランスの必要性にとどまらず、長期的視点を持って仕事と家庭以外にも地域との関わりの大切さに気づく機会にした。生活的自立と他者とのつながりがあるライフステージで必要なこと、そのことが将来の孤独な高齢者になることの予防にもつながることを伝えるため、単なる料理教室だけでなく、各家庭のリアルを話し合い、パパ友との交流を深めるためのパパ談議の時間を設けた。

ポイント

①少人数制で本音を話せるしかけづくり

過去に子育て中の男性を対象にした料理講座やコミュニケーション講座、再就職支援・ライフプランニング講座などを開催した経験を基に、男性対象の講座はなるべく少人数にすることと、パパ同士で本音を話しやすい雰囲気・場づくり、そのための橋渡しとなる仕掛けをつくることを考慮した。今回の講座では、「食」を軸に身体づくりや心の健康につながる食事づくりと、家族との会話を楽しみながら安定した関係性を築く「食事の場」をグループ内で体験共有することで、その後の「パパ談議」で本音を言える交流を深めるきっかけにした。

②カジダン・イクメンの「リアル」を話せる講師と体験共有し身近な存在に

実体験を基にカジダン・イクメンのメリットやワーク・ライフ・バランスや家族にモテるパパになるコツを伝えられる、受講生のロールモデルとなる方を講師に選定し、講座全体のコーディネートに依頼した。受講生と共に食事づくりから体験を共有していただき、同じ釜の飯を食べ、セミナーにつなげたことで、受講生の聴く姿勢も熱心であり、必要な情報を得て、グループ内での話し合いも気兼ねなく行われたようである。

③フェイスブックの活用

各地区で男女共同参画等を推進する活動を行っている2団体と連携し、広報、当日の運営など協力をいただいた。広報に関してはフェイスブックを活用し、当センターが講座開催を呼びかけたほか、連携団体の会員がイベント告知機能を利用、情報のシェアなどを行い、情報拡散にご協力いただいた。また、講座中に講師からフェイスブックを活用した「イクメン活動報告」について紹介があり、受講生は早速パパ同士で友達申請をし合い、料理実習の様子を写真に収め、フェイスブックで公開を行い、当講座の事業内容を受講生が自ら発信した。

活動の成果や今後の展開 ～その場で終わらないパパ友つながりに期待～

今回の講座で盛り上がったのが、弘前会場でグループごとにパパ同士で語った「わが家の家事・育児・分担例」。さまざまな事例を話し合い、中には人生相談（！？）に発展していったグループもあり、パパ同士が同じ立場で本音を語り合える場ができたことがとても有意義であったと思う。同じく八戸会場では、子育てを通じてできる地域活動が仕事にも役立つことを講師の実例から学び、イクメン・イキメン（地域活動などをする男性）であることが仕事や家庭以外の居場所づくりでも大切なことにも気づいたうえで、参加者全員が一人ずつ「イクメン宣言」を書き、発表した。いずれの会場でも参加者は普段はなかなか言えないことも、今回のようにパパ同士で気軽に話し合える機会にじっくり話すことでパパ友づくりや地域活動デビューのきっかけになったものと思われる。

また、青森会場をはじめ各会場で講座の様子を即座にフェイスブック等で公開する受講生も相次ぎ、講座後に家庭で料理を実践した様子をアップしている受講生もいた。担当職員も個人アカウントで受講生とつながり、情報発信と共有を通じたつながりを持続していきたいと思っている。さらに、地域で「パパサロン」を運営するなど男性の子育てを支援する団体等が連携団体として参画したことで、同講座の目的を共有しながら、それぞれの今後の活動にも広がりをもってつないでいる。そういった意味でもフェイスブックなどは有効であり、その場で終わらない関係性をつなげていくのに有効であると感じている。受講生の記事を当センターのフェイスブックでもシェアするなどして、青森県内のカジダン・イクメン活動を広げ、継続的に応援していきたい。



【事業実施主体の紹介】

名称 青森県男女共同参画センター指定管理者 ASTAC・G（アスタクグループ）

概要 青森県男女共同参画センターは、平成13年に青森県の男女共同参画推進の拠点施設として開館。青森県子ども家庭支援センターとの複合施設で愛称は「アピオあおもり」。平成18年から指定管理者制度が導入され、民間企業の共同体であるASTAC・G（アスタクグループ）が受託。現在、3期目。当センターは情報提供、啓発・学習、相談、交流、調査・研究等の事業を体系的・総合的に推進している。また、研修室、ホール、調理実習室などの施設のほか、保育室や交流・展示コーナー、そして、2万冊の蔵書を配架している情報ライブラリー、未就学児が保護者と一緒に遊べるプレイルームなどがあり、子ども連れの若い家族から企業人まで老若男女、多様な利用者が集う。指定管理業務として相談事業、情報事業、情報誌の発行、女性の人材育成を目的とした「あおもりウィメンズアカデミー」、市町村ネットワーク強化のための「地域パートナーセッション」、一日で1700人の来場者があった「パートナーセッション2012・アピオあおもり秋まつり」などがある。

ホームページアドレス <http://www.apio.pref.aomori.jp/gender2011/index2.html>

連絡先 青森県青森市中央3丁目17-1

TEL 017-732-1085 FAX 017-732-1073 メール danjokouza@apio.pref.aomori.jp